

高田川新聞

2016年12月26日 発行 高田川部屋後援会事務局 〒135-0024 東京都江東区清澄2-15-7 www.takadagawa.com

大相撲 一月場所

平成29年1月8日より 15日間 於 両国国技館

高田川軍団 初場所に挑む



竜電 復活の場所で 初の勝ち越し

東京に五十四年ぶりに白い雪が舞った十一月。その頃、福岡では平成二十八年最後となる九州場所が行われ、高田川部屋力士たちは熱い戦いで白い星を重ねていった。二場所連続の勝ち越し力士十二名。その中で、ひととき目立ったのは四年ぶりの十両復活をみせた竜電だった。

湘南乃海 幕下でも 自己最高位更新

十一月場所では、勝ち越し十二名で幕下以下では五勝以上が五名と、よい形での一年締めくくりとなった。なかでも連続勝ち越しの力士が六名おり、須磨ノ海は連続しての五勝。初の幕下入りまであと一歩のところまで来た。

着実に成果が実った 一年

平成二十八年は、輝の新年幕から始まり、竜電十両復帰、湘南乃海若手の成長著しく部屋全体のレベルアップが顕著な一年だった。平成二十九年は、各人の頑張りが高田川部屋の更なる進化を大いに期待したい。

かの間、三日目動きよく攻めながらも青狼に土俵際いばり二勝四敗。前に出る相撲はできてはいるが詰めが雑になってきている、そう感じた竜電は、素早く修正を施し、大翔鷹に粘りの相撲で勝つてからは怒涛の七連勝。十日目には剣翔をもろ差しから寄り倒して十両初の勝ち越しを決めた。「九日目からは未体験の世界」と笑って話していたが、終わって話せば九勝。より強く進化した竜電の復活劇を相撲を愛する多くのファンに印象づけた。初場所は番付も上がって、十両・竜電、高みを目指す真の戦いが始まる。

平成二十七年九州場所から連続の勝ち越しと自己最高位を更新している湘南乃海。九州場所千秋楽で部屋年間最多勝を受賞した。幕下に入っても狙うは勝ち越しではない。大勝ちと言いつつ、先輩の竜電が再十両に上がったことで部屋の言葉が裏付

けるかのように、三番立て続けに勝って勝ち越しに王手。惜しくも中日には黒星を喫したが、翌九日目は千代栄に勝ってあっさり七場所連続の勝ち越しと自己最高位を更新した。しかし、勝ち気に逸ったのか、勝ち越し後の二番を落とす。伸び盛りではあるが、まだまだ穴も多し。思いきり踏み込んで相手を起こしていきけるような立ち合いと左四つを磨いているという湘南乃海。課題をいかに克服しながら、自分の相撲を磨くか。とはいえ、部屋で唯一、平成二十八年六場所全てで勝ち越した十八歳の若者に益々の視線が集まる。

白鷹山も体調回復とともに二場所連続勝ち越しと徐々に調子が上がってきており、初場所では幕下上位に戻って、高田川部屋三人目の関取候補頭。自力のついてきた大野城は一年ぶりに幕下復帰目前。怪我で三場所休場したベテラン大雷も序二段優勝こそ逃したものの、地元で元気に六勝。明るい兆しの多い場所となった。

平成二十八年は、輝の新年幕から始まり、竜電十両復帰、湘南乃海若手の成長著しく部屋全体のレベルアップが顕著な一年だった。平成二十九年は、各人の頑張りが高田川部屋の更なる進化を大いに期待したい。

前の九州場所。中日に右股関節骨折という大怪我をし、四勝のまま休場。竜電の関取としての場所はあつけない八日間での幕を閉じた。医師から再起不能とまで言われた大怪我。竜電は四年の歳月をかけ、再び十両へと戻ってきた。初日、二日目と連勝。それはまさに堂々たる十両力士の相撲だった。しかし、そう思ったのもつ



輝 勉強の場所

九月場所幕内初の勝ち越しを決め、十一月場所では自己最高位の番付に立つ

「竜電剛至相撲屋句」 ハアノアノー ドスノイ ドスノイ 夢にまた見た関取 竜電ヨ、アノー ドスノイ ドスノイ 甲府まれの快男児 性急な、名は松樹 柔道で鍛えられた 時の怪傑は必死で 熱く闘う 角界へ 師匠の魂を継ぎ 安芸乃島 たたき高田川 四股名を継ぎ 竜電は 竜電の電の字と 最強の電を取り 後継ぎに 後継ぎに 後継ぎに

「竜電剛至相撲屋句」 ハアノアノー ドスノイ ドスノイ 夢にまた見た関取 竜電ヨ、アノー ドスノイ ドスノイ 甲府まれの快男児 性急な、名は松樹 柔道で鍛えられた 時の怪傑は必死で 熱く闘う 角界へ 師匠の魂を継ぎ 安芸乃島 たたき高田川 四股名を継ぎ 竜電は 竜電の電の字と 最強の電を取り 後継ぎに 後継ぎに 後継ぎに

平成二十九年1月22日(日)午後6時半開宴(会費制) ※会場は、ホテルニューオータニ東京 おり鶴の間にて お申込み FAX 03(5646)0444 行司 式守勘太夫 電話 090-3215-6524



竜電 勉強の場所

九月場所幕内初の勝ち越しを決め、十一月場所では自己最高位の番付に立つ

平成二十九年1月22日(日)午後6時半開宴(会費制) ※会場は、ホテルニューオータニ東京 おり鶴の間にて お申込み FAX 03(5646)0444 行司 式守勘太夫 電話 090-3215-6524

着実に成果が実った 一年

平成二十八年は、輝の新年幕から始まり、竜電十両復帰、湘南乃海若手の成長著しく部屋全体のレベルアップが顕著な一年だった。平成二十九年は、各人の頑張りが高田川部屋の更なる進化を大いに期待したい。

高田川 親方の 喝!

九州場所、部屋全体を通して言えることは、あと一つ足りない、あと一歩及ばないということ。つまり、稽古が足りないのだ。

＜トピックス＞

大相撲には、年6回の本場所以外に春(関東・東海・近畿)、夏(東北・北海道・信越)、秋(東海・北陸・関西・中国・四国)、冬(九州・沖縄)の地方巡業があります。十二月四日から始まった今回の冬巡業には、初めて輝、竜電の二関取が参加しました。

写真は、冬巡業初日、大分県立総合体育館支度場所の様子です。

竜電の すもうす 関取とは、十両以上の力士のこと。関取になると大銀杏が結えたり、まわしも黒以外の締めこみができ、付け人がついたり、給料ももらえるようになります。しかし、一番は場所中毎日相撲があること。休まる日もなく気が張ったままなので十五日間頑張り続ける体力と気力をつけるためにしっかり稽古をし、怪我のないよう体のケアするのが大切と感じています。



高田川 親方の 喝!

九州場所、部屋全体を通して言えることは、あと一つ足りない、あと一歩及ばないということ。つまり、稽古が足りないのだ。

九州場所、部屋全体を通して言えることは、あと一つ足りない、あと一歩及ばないということ。つまり、稽古が足りないのだ。

九州場所、部屋全体を通して言えることは、あと一つ足りない、あと一歩及ばないということ。つまり、稽古が足りないのだ。